

令和6年度 県立勝田中等教育学校自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と起業家精神を兼ね備え、自ら人生を切り拓くとともに、「地域」と「世界」をつないで地域創生に貢献するグローバルリーダーを育成する学校			
三つの方針				
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	① 主体的な学びを通して、知識・技能を活用することができる生徒を育成する。 ②探究的な姿勢で、新たな創造をすることができる生徒を育てる。 ③豊かな人間性にあふれ、多様な人々と協働することができる生徒を育成する。 ④個々の夢の実現に向けて、挑戦し続けることができる生徒を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①カリキュラム・マネジメントに努め、学校教育活動全体で教科等横断的な学習を推進するとともに、個に応じた学習や課題解決型学習を促進する。 ②「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育活動を通して、グローバル社会に対応できる「課題を発見する力」「発見した課題を分析し、探究する力」「解決に向け、試行錯誤しながら実行できる力」等を育成する。 ③探究活動や国際教育、科学教育等に重点を置いた「開かれた教育課程」を実現させることで、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる資質・能力の基礎を培う。 ④生徒一人一人の個に応じた学習指導とキャリア教育の推進を通して、諸依頼の夢を叶える上で難関大学や海外大学等への進学を実現させる。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて的確に判断することができる生徒 ②他者と切磋琢磨しつつ互いの立場や考えを尊重しながら共に協力し合える生徒 ③何事にも最後まであきらめずに挑戦し続けることができる生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
1 豊かな心の育成 基本的生活習慣を定着させることを目指してきた。生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、日常的に規範意識の高揚を図ってきた。コロナウイルスについても、対策が徐々に緩和されたことにより、可能な範囲で学校行事や探究活動、生徒会活動等を実施することで、多様な人々との交流や、社会貢献など、豊かな人間性にあふれ、人々と協働することができる生徒の育成を目指す。		1 豊かな心の育成	①「時を守り、場を清め、礼を正す」の一層の徹底を目指し、規範意識の高揚を図る。 ②道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ③国際教育を推進し、豊かな国際感覚を身に付けるとともに、異文化理解の促進を図り、多様な人々と協働しようとする態度を養う。 ④学校行事や生徒会活動、探究活動等を通じて異年齢交流を推進し、社会性の基礎を培う。	A
			⑤中高一貫教育校としての6年間の体系的な教育課程の編成と指導計画の作成を行う。	B

別紙様式 2 (中等)

2 確かな学力の涵養 6年間という時間の中で目指す人材育成を実現するための目標を設定することで、ICT 機器等を効果的に活用した反転学習や学習課題の提示、家庭学習の習慣化を目指してきた。生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質や能力の育成に努める。 3 進路指導の充実 自らのキャリアを計画、実行できる力の育成にむけて「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育てるとともに、試行錯誤で取り組んできたが、更に校外での体験研修等の拡大と充実を図る。 4 特別活動の活性化 課題意識をもって生活できる生徒を育てるために、各種生徒活動を大切にしてきた。生徒自身の自治力を一層高めるために、学校生活に広く気を配り、生徒が自ら気づき、解決する自発的・自治的な活動の充実 に努める。	2 確かな学力の涵養	⑥主体的な学びを通して、知識・技能を習得するとともに、これらを活用することができる思考力・判断力・表現力を育てる。 ⑦ICT 機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。 ⑧ICT 機器等を活用した学習課題の提示など、家庭学習習慣の確立を図る指導の充実に努める。	
	3 進路指導の充実	⑨生徒の高い志を育て、一人一人が自らの可能性に挑戦し、実現するための進路指導体制の構築に努める。 ⑩学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ⑪課題を発見し解決する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を推進する。	A
	4 特別活動の活性化	⑫学級活動や生徒会活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑬日常生活上の諸問題を生徒が自ら気づき、解決する自発的・自治的な活動の充実 に努める。 ⑭学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を推進する。	B
5 連携の強化 「地域」「企業」「大学」等との連携を強化し、多様な人々との関わりを通して、「開かれた学び」を推進してきた。より一層の連携と体制づくりに努める。 6 広報活動の充実 学校 HP や Classi を活用して、保護者や地域住民への情報発信を積極的に行ってきた。進学フェアへの参加、学校説明会や授業公開、学習塾や小学校訪問などを行うことで、入学者獲得に向けて広報活動に努めていく。 7 働き方改革の実践 ICT の活用により、より効果的に情報共有することができるようになった。会議にかかる時間が長いことが、校務を効率的に進めることの妨げになっている現状がある。 8 授業改善	5 連携の強化	⑮生徒の声、保護者の声、地域の声を真剣に受け止め、連携・協力して問題を解決する体制づくりに努める。 ⑯「地域」「企業」「大学」等との連携を強化し、多様な人々との関わりを通して学びを広め深める「開かれた学び」を推進する。 ⑰年次会を充実させ、職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑱部活動の地域移行を推進する。 ⑲グローバル教育、プログラミング、起業家精神教育における外部団体との連携を推進する。 ⑳WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（グローバル人材育成強化事業）の推進に向けて、外部団体等との連携を図る。	B
	6 広報活動の充実	㉑毎月の学校便りや年次便りの発行など、保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校の教育活動に対する理解と協力の獲得に努める。 ㉒イベント参加、学校公開、小学校訪問や塾訪問を充実させるととも	A

別紙様式 2 (中等)

生徒の学習に対する有用感や満足度を意識したり、ICT の効果的な利用を考えたりして、教科・領域の特性を活かした探究の過程を取り入れるように努めていく。			に、HP の更新と内容の充実に努め、本校の特色等を積極的に発信し、広く周知する。		
	7 働き方改革の実践		②長時間労働の改善に向けて、ICT 化を推進し、仕事の効率化を図り、定時退勤を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。 ④職員間の連携の主軸として教務主任を置き、連携しながら校務を進める。 ⑤改編期検討委員会において、業務の負担軽減や効率化に向けた話合いの機会を設ける。		B
	8 授業満足度 (KPI)		⑥職員で相互授業参観を行い、Katsuta Style の授業 (ICT の効果的な利用、探究の過程を意識した授業の構成) の在り方を研修していく。 ⑦定期的に生徒による授業評価を行い、生徒の学習に対する有用感や満足度を意識して、生徒の授業に対する意識の実態把握とし、授業改善に努める。それにより、授業の満足度の平均値が 3.5 点以上になるようにする。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度 (学期) への主な課題
教科	基礎学力の確実な定着を図る。	学習内容における基礎的・基本的な学習内容を明確にし、知識・技能の習得と、それらを活用した授業展開に努める。		A	・ ICT 機器を積極的に活用し、家庭学習の習慣化を図る。 ・ 自己理解を深めるとともに、多様性に気づき、互いに認め合いながら行動できるよう支援する。
		学習指導に係る RPDCA サイクルを確立し、絶えず生徒の実態把握と授業の振り返りを行い、授業の工夫改善に努める。		A	
	新しい時代における学びのスタイルを確立する。	タブレット端末を活用した対面指導・遠隔・オンライン教育のハイブリッド化による個別最適な学びを推進する。		A	
		学習支援システムやアプリケーション等を効果的に活用し、課題解決に向けた対話的・協働的な学び合いを学習活動の中に適切に位置付ける。		A	
		一連の学習活動で学んだことを蓄積し、過去の学びを振り返りながら、理解を深めることができるように努める。		A	
	学習の習慣化を図る。	ICT 機器等を活用した反転学習や学習課題の提示など、授業と家庭学習とをリンクさせ、家庭学習習慣が身に付くよう努める。		A	
		家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、学習の習慣化を図る。		B	
	時代の変化やグローバル教育に対応できるキャリア教育を推進する。	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にしながら協働していけるよう支援する。		B	
		生徒が、地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合っ、学校外へ向けて提案・実践する取組を推進する。		A	
		自分の良さが分かり、学級集団の中で自分の役割を果たしながら、自分らしく行動することができるよう支援する。		B	

別紙様式 2 (中等)

国語	基礎学力の定着を図る。	漢字練習ノートや問題集の計画的な取り組みと提出、計画的な授業の展開を通して、予習の習慣を確立させる。	B	A	・「書くこと」で根拠を明示して書けるように、「読むこと」の指導から根拠を探す意識づけをさせる。 ・課題への取り組み・日々の家庭学習など、生徒個々の学習調整能力の差が大きく、学んだ内容の定着が不十分な生徒も多いため、予習復習についての指導にも力を入れる。
	場に応じた表現の選択を主体的に行う力の基礎を作る。	音読や論述を授業及び家庭学習の課題として提示し、作品の内容や主題に沿った音読や論述の仕方を進んで考える力を養う。	A		
	教材を通して、豊かな心の育成を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れ自国文化を理解するきっかけとする。	A		
		現代文の学習を通して、多様なものの見方に触れ、思考の材料として活用する力を養う。	A		
	6年後の進路を見据えた体系的な指導を行う。	海外大学や国内難関大学への進学を見据え、3年次後期で後期課程の基礎的内容に入ることを目指して、計画的に学習内容を深化させ、後期課程との関連を授業内で明確に伝える。	A		
	生徒が国語の学習に有用感を得られる授業づくりを行う。	生徒が国語の学習を有用なものと感じ、満足する授業づくりを行うために、国語の授業における ICT の効果的な利用や探究の過程を意識した授業の構成について相互に研修し、授業改善を図る機会を定期的に設ける。	A		
社会	基礎学力の向上を図る。	ノート・課題等の提出をきちんと行い、学習習慣を身に付けさせる。	A	A	・単元を見通した授業を実践し、その中で ICT やデジタル教科書の活用を継続的に行うことができた。課題や振り返りに ICT を利用することで、業務の効率化や活動の蓄積ができ、効果的な取り組みにつながった。 ・単元テストや小テストを適宜実施し、基礎力を向上させたい。また、中・高の連携を大事にし、相互授業参観を行い、6年間を見通した学習をしたい。
		小テストや単元テスト等を行い、繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。	B		
	多面的・多角的に考察する力を育成する。	単元を見通した学習課題や見方・考え方を働かせた問いを設定し、協働的に追究する。	A		
		社会的事象の意味や意義を説明したり、根拠を明確にした意見交換や議論を行ったりする。	A		
	ICT の効果的な活用を推進する。	デジタル教科書、タブレット等を使って興味・関心を高め、導入の工夫、話し合いや発表の機会を増やし、学習を充実させる。	A		
	勝田高等学校との連携を図る。	学習の振り返りを行い、生徒一人一人の学習状況を把握し、次時の授業に生かす。	B		
		教員間で相互に授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		
数学	基礎学力の向上を図る。	課題として授業内容の基本演習を課し、家庭学習による復習の機会を設定する。	A	A	・計画的に課題を課すことを心がけ、基礎基本の定着に努める。 ・学習課題の提示の仕方や解決方法等を工夫し、アクティブラーニング型の授業を行う。 ・次年度は、問題集を書き込み式ではないものに統一するため、実施後の検討が必要である。
		ICT 機器によるアプリケーションを活用した基本的な確認問題を実施し、基本演習の充実を図る。	A		
	数学的な見方・考え方を働かせ、数学のよさを実感できる学習指導の工夫をする。	生徒が関心をもち、問いがもてるような学習課題・学習問題の工夫改善に努める。	A		
		多様な考えを認め合い比較する中で、よりよい問題解決や新しい考えを検討する場を設定する。	A		
	問題発見・解決の過程における数学的活動の充実を図る。	日常の事象や社会の事象から問題を見出し、解決する活動の工夫を図る。	B		
		ICT 機器を効果的に活用した数学的活動を行い、生徒の思考を活発にする授業づくりに努める。	A		
	中高一貫校として、将来の見通しをもった6年間の学習計画	授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。	A		

別紙様式 2 (中等)

	画を立てる。	上級年次の学習を先取りして指導することで、大学受験等にゆとりをもって準備できるようにする。	A		
理科	基礎学力の向上を図る。	主体的な問題解決の過程を大切にしたい授業展開をすることで、学習の流れを理解して、家庭学習にも生かせるようにする。	A	A	- 科学的なリテラシーを育成するために今後も生徒の主体的な学びを基礎に、深い学びができる授業展開を工夫していきたい。 - 生徒の協働的な学びができる授業を工夫していきたい。
		日常生活と学習内容が関連付けられやすい話題を提示することや、探究的な活動を取り入れることで科学的な自然観を育成させるとともに、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲をもたせる。	A		
	科学的な見方や考え方を働かせながら、理科のよさを感じる指導の工夫に努める。	「実証性」「再現性」「客観性」を意識した視点をもって、検証する方法を立案したり、結果をもとに考察していく際には複数の考えを交流したりする場面を設定することで、納得解を導き、基本的な概念の定着を図る。	A		
		自然と触れ合う体験活動を通して、自然に対する愛着や環境への関心を高め、持続可能な社会をつくりたいという思いをもてるようにする。	A		
	6年後の進路を見据えた体系的な指導を行う。	海外大学や国内難関大学への進学を見据え、3年次後期で後期課程の基礎的内容に入ることを目指して、計画的に学習内容を深化させ後期課程との関連を授業内で明確に伝える。	B		
音楽	育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画の作成を行う。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	A	A	- 苦手意識を克服し、楽しく参加できる授業、また自己のイメージや感情を表現し達成感を味わえる授業を目指す。丁寧な授業を心掛ける。 - 主体的・協働的な学びの育成。教え合ったり課題を見ついたり解決したりができる雰囲気作りを目指す。
	音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実を図る。	感性を働かせて、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化と関連付ける学習の工夫改善に努める。	B		
	多様な音楽活動の実現を目指した授業改善と、題材構成の工夫を行う。	我が国や諸外国の様々な音楽に親しむ指導の工夫改善に努める。	A		
		個に応じた指導を行い、生徒による授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合80%以上を目指す。また、演奏発表の場を設けることで、基礎的な技能を高める。学校内外の音楽活動のつながりを意識した授業の実践に努める。	A		
美術	育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画の作成を行う。	主題を生み出し、豊かに発想し構想を練る「表現の活動」の充実を図る。	A	A	- STEAM教育の充実。各教科と関連づけた学習をつくりあげることで、美術や美術文化が生活と深く関わっていることを、体感させられるようにしたい。 - 鑑賞活動と制作活動を一体化させた授業づくり。
		美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める「鑑賞の活動」の充実を図る。	B		
	造形的な見方・考え方を働かせた学習の充実を図る。	自己との対話を深めることや、発想や構想に対する意見を述べ合ったり、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を取り入れる。	A		
	表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。	学習のねらいに応じて、実物に触れて感覚を働かせる学習と、ICT機器を効果的に活用した学習を見極めた指導に努める。	A		
保健体育	個に応じた多様な指導方法の工夫改善を図る。	ICTの効果的な活用を図る。	B	A	ICTの活用(体育)の環境整備を進めていく。自身の課題に気づき、解決していく能力を養っていく。
		体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの楽しみ方を共有するための指導の工夫に努める。	A		
	指導と評価の一体化を図る。	指導場面や評価機会を関連づけた指導と評価の計画の作成と授業の実践を行う。	A		

別紙様式 2 (中等)

		自他の健康を主体的に考える保健の授業の充実を図る。	実習、実験、課題学習等を取り入れた保健の授業を実践する。	A		
			保健・医療関係等の参画や養護教諭、栄養士などとの連携・協力を図る。	B		
技術・家庭	3年間を見通した指導計画の工夫改善に努める。	小学校との系統性を踏まえた指導計画の作成を行う。		B	A	- 各小学校で行ってきた取り組みを把握することができれば、よりよい指導計画につながる と考える。 - 学習環境は整ってきたが、人数 に対しての教材の数が少ない ため、充実した学習のために教 材の整備に取り組んでいき たい。
		他教科等との連携、情報教育、消費者教育、環境教育、知的財産に関する教育及び食に 関する教育等との関連付けを図る。		A		
	生活や社会における課題の解 決に主体的に取り組む問題解 決的な学習の工夫改善に努め る。	学習過程の中で生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせる授業 を展開する。		A		
		よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けた学習活動の工夫に努める。		A		
	学習環境の整備と事故の防止 に努める。	安全や衛生に対する意識を高め、実生活に生かすための指導の工夫に努める。		A		
		教材整備指針に基づいた教材の計画的な整備と定期的な保守点検に努める。		B		
外国語	「聞く」「話す」の活動に重点 を置いて、英語の学習意欲を 高める。	I C T機器を活用し、自主的に学習する生徒を育てる。		A	A	- 学年に合わせて「聞く」「話す」 から「書く」「読む」への系統 性を意識して指導することが できた。指導者が変わっても、 系統性を持った指導を、今後も ぜひ継続したい。 - 授業での活動に加え、家庭学習 の習慣がつくよう、継続して指 導したい。
		その場に応じた対話ができるように、場面を工夫する。		A		
		スピーチやクイズなどの手法を使って、生徒自らが知らせたいという気持ちをもたせ る。		A		
	簡単な英語を使って、自分や 身の回りのことについて、友 達に伝える力をつける。	スピーチやクイズなどの発表を録音・録画し、生徒自身が振り返り改善することで、 表現の質を高める指導をする。		A		
	「書く」「読む」の活動を通し て、さらに多くの語句やフレ ーズに慣れ、表現力を高める。	行事の振り返りなどを英語で書いたり、友達の作文を読んだりすることで、表現力を 高める。		B		
	高等教育への移行準備に努め る。	授業で習ったことを生徒が自ら深めていけるように、個々の実力に合わせて ICT やワ ークブックを活用できるよう指導する。		B		
教務	教務	授業時間の確保に努める。	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。	A	A	3 観点評価の付け方の共通 認識を深める。 - 教員同士の授業の相互参観の 機会を、もっと自由な時に行う ような雰囲気作りを図る。 - Classi や Classi note の活用 をもっと広める。
			各部・各学年と連携し、行事等の見直しや能率的運営により授業時間を確保する。	A		
		学習指導の充実を図る。	シラバスを生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に生徒に示す。	A		
			校内研修や授業の相互参観をする機会を設けることで、より一層の授業の充実を図る。	B		
			評価方法及び学びの改善に関する研修会を実施し、指導と評価の一体化に努める。	A		
		開かれた学校づくりをめざ す。	ホームページの更新や Classi の活用を通して、詳細な情報を保護者、地域に発信する ように努める。	A		
			高校との情報交換を行い、連携強化を図る。	A		
			多くの小学生が本校に関心をもつように、学校説明会の内容と運営方法の改善に努め る。	A		
			学校評議員会を通して、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。	A		
		情報処理環境を充実させる。	成績処理を中心とした生徒情報の管理システムを安定させる。	A		

別紙様式 2 (中等)

		中等教育学校と高等学校との連携強化を図る。	学校運営および教育課程の在り方や授業改善などについて、積極的に情報交換を図る。	A		
			各部と連携し、新校の体制及び組織づくりを効率的かつ円滑に進める。	A		
		I C T機器を活用して、協働学習の促進や言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	授業における具体的な I C Tの活用などについて、研修会や動画の配信などを行い、教職員のスキルの向上を図る。	A		
			I C Tサポーターと連携し、授業準備やチームティーチング、I C T機器等の操作など、授業づくりの支援を行う。	A		
		I C Tによる校務の効率化を図り、教職員の業務負担軽減や労働時間削減を図る。	教職員に対して研修や支援を随時行い、校務支援システムやClassi の積極的な活用を促進する。	B		
			校内サーバーの保守や、I C T機器の整備・メンテナンス、各種システムの管理を定期的に行い、安定感のある常に使いやすい状態を維持する。	A		
		視聴覚機器の整備を図る。	常時視聴覚機器の整備・点検を行うことで、不具合等によるトラブルを未然に防ぐ。	A		
	図 書 館 室	本に親しむ習慣の育成を図る。	「図書館だより」を発行し、本への興味を高め、読書の習慣を育む。	A	A	・ 中学 1 年生から高校 3 年生という幅広い生徒層の発達段階に合わせた支援と館内環境の整備に心がける。
			生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、図書館をより身近な存在として意識し、利用を促進する契機とする。	A		
		図書館環境の整備を図る。	図書館内外の環境を整備し、落ち着いて読書できる雰囲気づくりに努め、図書委員の推薦図書コーナーを設けるなど図書委員会の活性化を図る。	A		
		校内外への情報の発信を積極的に行う。	生徒・保護者に「図書館だより」を配布し、本校の図書館の特色や蔵書等について発信する。特に新入生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。	A		
進 路 指 導	進 路 指 導	進路指導計画を策定し、狙いや見通しを持った進路指導を行う。	各種進路行事を企画・運営する。	A	A	・ 各種進路行事を企画・実施することができた。今後は classi を活用した生徒のポートフォリオの蓄積をより充実させていく。 ・ 各種進路行事を踏まえて、各学年ともキャリア教育を推進し、職業観の育成を図れた。今後は学習への意識を高めさせたい。 ・ 教員の相互授業参観や外部研修も実施でき、その結果も共有できた。次年度は、より意義のある研修を計画したい。 ・ 今後は、6 年間を通しての進路指導計画の策定したうえで、各学年と連携を図り進路指導の充実をはかりたい。
			classi を活用し、生徒のポートフォリオの蓄積を進める。	B		
		組織的・継続的な進路指導体制を確立することに努め、生徒の主体的な進路選択能力を育成する。	学年や他分掌、勝田高校との連携に努め、進路行事等の円滑な運営を行うとともに、充実を図る。	B		
			進路学習等を通じ、「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や態度を育てるとともに、自らのキャリアを計画、実行できる力を育成する。校外での体験研修等の拡大と充実を図る。	A		
		キャリア教育を推進し、職業観の育成を図る。	キャリアデイをはじめ、社会で活躍する様々な人材と出会う機会を多く設ける。	A		
			職場体験学習をとおして自らの職業観を育み、将来の在り方生き方について考えられるよう支援する。	A		
		教員の授業力向上を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、相互授業参観の実施や外部研修への参加を進め、その結果を共有する。また、有効な情報を広く獲得するよう努める。	A		
		大学入試を念頭に置いた学習指導・進路指導を行う。	外部模試を実施し、生徒の学力状況の把握に努めるとともに、結果を広く共有し、各教科の授業や集会等を通じてフィードバックし、生徒の学力向上につなげる。特に、3 年次生の基礎学力の向上を目指し、実力テストを実施する。	B		
	未 来 探 究 室	グローバルプログラムを企画・運営し、グローバルリーダーとしての資質・能力を育	グローバルデイを年 2 回実施し、生徒に短期・長期海外留学や海外大学進学の情報を提供するとともに、帰国後の指導体制についても改善を図る。	A		・ グローバルデイは 4 年目となり、県外・国外の進路情報の共有も定着してきた。

別紙様式 2 (中等)

		成する。	グローバルコンピテンスプログラムに関して、外部講師・企業との円滑な連携に努め、常に改善を図りながら授業を運営する。	A	A	・留学生の派遣・受け入れを進めることができた。 ・GCP による生徒のマインドセット育成も順調といえる。GCP 授業時間の確保は今後も課題がある。 ・第 2 回探究フェスに向けて、昨年度の反省を生かしたうえで準備を進めている。 ・生徒が学外のプロジェクトに挑戦し、優秀な成績を収めている。探究心も育ちつつある。 ・教員間の連携と前期課程の行事の過密さが課題。
		探究プログラムを企画・運営し、探究学習を通じて基礎的スキルの育成を図る。	探究フェスを充実させ、異年齢交流による議論を行い、探究スキルを向上させるとともに、社会的なコミュニケーションスキルを高める。	A		
		未来探究コンソーシアム構築を目指して、社会連携を進める。	チャレンジプロジェクトの各項目の達成に努める。	A		
			育成したい能力に係るルーブリック表を完成させる。	B		
			外部諸団体と積極的に接触し、連携を強化すると共に、常に新しい情報の獲得に努める。	A		
			校内体制を整備し、学年・各分掌・各教科との連携を強化し、本校の教育力を最大限生かせるよう全体の調整を行う。	B		
		常に先を見据えて企画・運営を進める。	令和 7 年度以降について、今年度内に準備を進め、次年度以降の円滑な運営につなげる。	A		
			P D C A サイクルを念頭に、意見を収集しながら諸企画の改善を常に模索する。	A		
生徒指導	生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	校内・校外巡視を実施する。	B	A	・11 月のさわやかマナーアップキャンペーンは校内で生徒・保護者・職員で実施した。次年度は回数を増やしたい。 ・別室登校の対応を始めたことで、登校を促すことができた。今後は、教室で学習できるような支援について検討したい。
			各学年と連携し、朝の立哨指導や服装一斉指導時に生徒への声掛けを積極的に行う。	A		
		規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	遅刻指導・授業のチャイムスタートの励行を図る。	A		
			校外のキャンペーンの参加や、保護者（生徒指導委員）、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。	B		
		交通安全の充実を図る。	通学路における登下校指導の徹底を図る。	B		
			交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の高揚と事故時の対応力の向上を図る。	A		
	教育相談	問題の未然防止、早期発見、早期支援に努める。	面接週間を年 2 回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。	A		・QU アンケートと職員研修会を 2 回実施できた。 ・SC との連携を深化させ、問題を有する生徒への早期の対応を図り、多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担任（学年）と共に探ることができた。 ・面談が充実できた。
			Q-U アンケート調査・悩み調査アンケートを実施し、自分も仲間も大切にする学級づくりを担当が目指せるよう支援する。	A		
		職員研修の充実を図る。	職員研修会を年 2 回実施し、教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化し、支援方法についての理解を深める。	B		
		スクールカウンセラー（SC）を積極的に活用する。	担任と SC の連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担任（学年）と共に探る。	A		
特別活動		話し合い活動の充実を図る。	学級会を開き、適切に話し合いができるように支援をすることで、自治ができる集団づくりをする。	A	A	・クラスマッチや文化祭などの学校行事において、高校・中等の区別なく、皆が参加し生徒自身が運営することが出来た。 ・中等前期のなかでのさらなる
		委員会活動の充実を図る。	学年生徒会や各委員会では、学校生活に広く気を配り、課題意識をもって生活できる生徒を育てる。	A		
			3 学年の連携を大切にし、共に声をかけ合いながら、意欲的に活動できる生徒を育て	B		

別紙様式 2 (中等)

		る。			縦のつながりが出来るよう指導していく。
	生徒会活動の充実を図る。	高校と連携しながら発達段階に応じて、仕事を適切に処理できるように支援する。 また、上級生が働く様子から、見て真似る生徒を育てる。	A		
		学校行事に進んで取り組めるように、クラスでの活動の時間を確保する。	A		
	キャリア教育の充実を図る。	キャリア・パスポートを活用しながら、長期的・短期的な目標をどのように達成させるか、主体的に考える力を育てる。	B		
保健厚生	環境整備及び美化に努める。	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充実を図る。	B	A	- 健康管理医・学校薬剤師と連携をとりながら、生徒の健康管理・校内の環境整備改善に努めることができた。 - 長寿命化工事に向け、清掃用具の充足、分担区域の見直し等が必要。 - 保健室利用者が多かった。特別な配慮が必要な生徒には、年次・教育相談と連携をとりながら、支援していきたい。
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。	B		
		教室環境検査を実施し、学習環境の改善に努める。	A		
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個々人の健康状態の把握に努める。	A		
		薬物乱用防止教室・性教育講話等を通して集団や個別に対する指導を適切に行い、健康に生きる力・意欲を育てる。	A		
		毎朝の健康調査を始め、生徒の心身に気を配り小まめな声かけを行い、不調を早期に察知できるよう努める。	A		
		給食便りや献立表を作成、配付し自分たちが食べているものについて知り、自身の健康への意識が高められるように努める。	A		
	防災訓練・設備点検等を適宜実施し安全な学校生活の保持・推進に努める。	月ごとに安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。	A		
		防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動がとれるようにする。	B		
渉外	P T A活動の活性化を図る。	勝田高等学校と中等教育学校併存期間におけるP T A会員の連携・協力を深める。	B	A	- 後期課程開始2年目をむかえ、P T A活動の勝田高校からの引き継ぎや連携を今以上にやり取りしスムーズに移行したい。 - ここ数年、広報誌の誌面が前年度の内容の踏襲になってしまっているので、他校の事例なども紹介し年度ごとのオリジナルを作成できるようにする。 - 各委員会は、活性化を図るために、他校の活動情報と比較検討をし、次年度の早い段階から準備できるように取り組んでいく。
	各種委員会活動の活発化を図る。	地域社会に根ざした学校教育を目指したP T A活動を行い、情報を発信する。	A		
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。	A		
		生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。	A		
	保護者、役員と学校との連携を強化し、充実した教育活動を行うことができる環境を整備する。	視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。	B		
		広報紙「たらさき」の内容充実にも努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。	A		
		各種大会や研修会等に参加することで、他校の実践活動についての情報収集に努めるとともに、教務部やICT推進室など各部署と連携を取り、ホームページや広報誌を通じて学校活動の様子を発信し、教育活動への理解と協力を得られるよう保護者、役員との連携を密にとる。	A		
第1年次	学びの基礎・基本となる学力の向上を目指し、学習習慣を身に付けていく。	学習の基礎となる知識・技能を身に付けたり、問題や課題を解決していくための基本となる考え方を意識したりするために、授業における課題提示や考えを交流する場のもち方、自己認識を高める振り返り等の工夫改善に努める。	A		教科担当の先生を中心に、ICTを活用したり、学習形態を工夫したりするなどして、多様

別紙様式 2 (中等)

		知識・技能や見方・考え方を繰り返し確認し、定着していくための家庭学習の仕方を個別に指導する機会を設けていく。	B	A	な学びの方法を用意することができた。 ・ローテーション道徳を取り入れ、学年スタッフが全員の生徒と関わる機会を作ったり、生徒が担任以外の多様な価値観に出会えたりするようにした。 ・手帳の活用や定着について課題が残った。 ・学年生徒会を中心にレクを企画・運営をしたり、班活動を強化したりするなど、「小さなリーダー」の育成に努めた。	
	自分を大切にし、思いやりと共感をもって他者の考えを受け止め、互いを尊重し合う。	相手の気持ちを考え、ともに問題解決を図っていく場を計画的に設けることで、様々な考えや価値観と出会うことができるようにする。	A			
		健康や安全について考える機会をもち、自分自身を大切にしようと考えるとともに、他者の安全や思いについても尊重していこうという気持ちを高めていく。	A			
	グローバルリーダーを目指すという気概をもって、様々な活動に挑戦していく。	様々な活動や学校行事の中で、自分たちにできることを見いだし、進んで取り組もうという意欲を高められるように、活動の事前指導や事後の振り返りの場を大切にする。	B			
		勝田高等学校の生徒や、2～4年次生の姿を見ることで、どのような姿勢で活動に取り組むことがふさわしいのかを実感したり、今後どのような活動や学校行事を運営したいか考えたりする機会としていく。	A			
第2年次	学習習慣を身に付け、基礎学力の向上につなげていく。	生徒の学習記録をもとに面談などを行い、より効果的な学習スタイルをアドバイスして、学力の定着を図っていく。調査前には学習計画表作成の場を設定し、無理なく学習を進めていけるように支援していく。	A	A	・調査前の学習会、夏季・冬季の学習会等を開き、下位層の生徒の基礎力を高める支援をした。また数学においてはClassiを活用し、年次を通して問題の解き直しをしながら基礎基本の定着に努めた。 ・異文化体験キャンプを通してクラスの友達と宿泊しながら協働する喜びを体験するとともに、英語学習グループの友達やALTと英語を使いながらの交流から自信と自己肯定感を高めることができた。 ・探究学習を通して、阿字ヶ浦のゴミ拾いをしたり、駅周辺の店でインタビューをしたり、防災運動会に参加したりしながら、様々な郊外での活動に進んで取り組むことで積極的な態度を育てることができた。	
		生徒が学習の基礎となる知識・技能を身に付け、問題や課題を解決していけるように、繰り返し確認する機会を設ける。また、生徒が自己認識を高める振り返りができるように工夫改善に努める。				
	心身ともにたくましく、互いを認め、尊重し合う。	自分も相手も尊重する気持ちをもち続けて、その上で自分のよさに自信をもって物事に取り組んだり、自分とはちがう考えを受けて、譲り合いながら活動したりすることができるしなやかな強さを育てていきたい。	A			
		うまくいかなかったことを失敗と捉えるのではなく、成功するためのステップであると前向きに捉えられるように、活動の前後に振り返りの場を設けていく。				
		学校や地域、自分の興味あることなど様々な活動に見通しをもって取り組んでいく。	様々な活動や学校行事の中で、計画の段階から自分たちにできることを考え、できることに積極的に関わっていこうとする意欲を高められるように、活動の事前指導や事後の振り返りの場を大切にする。			A
			勝田高等学校や他学年との連携を図り、上級生の姿を見たり、下級生の様子を見たりすることで、どのように活動するのがよいかを実感したり、今後どのような活動や学校行事を運営したいか考えたりする機会を設ける。			
第3年次	基礎学力および学習習慣の定着を図る。	後期課程への円滑な移行に向けて、今後の学習の基礎となる知識・技能の定着を図る。放課後や長期休業を活用し、補習を実施することにより学力の底上げを図る。	A		・実力テストの結果をもとに補習を実施し、提出物を習慣化	

別紙様式 2 (中等)

		学習スタイルの確立を目指し、個別面談を実施しながら学習計画立案のための助言や支援を行う。	B	A	させる取り組みも行ったが、個別に学習立案を支援することはあまりできなかった。また、上位層をどう育てていかも各教科で検討が必要である。模擬の分析をきちんと行い、有効活用して個に応じた指導ができるようにしたい。 ・修学旅行、合唱コンクール、クラスマッチなどの行事で各クラスで成長を実感できた。また、大学見学などの「キャリア教育」、「夢探究ゼミ」など生徒一人一人が主体的に取り組み、充実した探究が実施できた。
	豊かな人間性の醸成を図る。	様々な教育活動において主体的に取り組むことを促し、向上心をもって自らの可能性を上げるとともに生徒一人ひとりが目標実現を目指す。	A		
		自己理解を深め、多様な他者の個性を理解し、個々を尊重することを大切に協働できる人間性を育む。			
	前期課程の総仕上げと後期課程への移行を進める。	基本的生活習慣や規範意識を含めた自己管理能力の伸長を目指す。また、部活動や清掃等の様々な場面で、上級生をサポートし下級生をリードする存在であることの自覚を促す。	A		
		探究活動等を通して自己を見つめ直し、卒業後の進路を含めた自らのキャリア形成の機会を設けるとともに、自ら考えて修正できるキャリアプランニングの能力を育む。			
第4年次	基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	高校生としての自覚を促すことで、自立を目指して物事に主体的に取り組むとともに、自らを律し規範的な言動がとれるような姿勢を育む。	B	B	・高校生としての自覚が芽生え、切り替えることができている生徒が多い。探究等を通して多様な社会についての理解が進んだ。
		自らの可能性を上げるために向上心をもって物事に挑戦する意欲を育む。また、自己理解および他者理解により、多様な社会において個々を尊重して協働できる人間性を育む。			
	キャリア教育の充実	学習と探究活動の系統的指導を通して自己理解を深めるとともに、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。	A		・早期キャリア講座や探究デイを通して、自己理解を深めるとともに、キャリアについて深化を測ることができた。
		大学出張講義、キャリア講演会、オープンキャンパス参加等を活用し、文理選択を含めた進路目標の明確化を図る。			
	学習習慣の確立と学力の向上	授業を核とした学習習慣の定着を図る。また、中位層・下位層の学力向上と上位層の育成を図る。	B		・学習習慣の重要性は認識できているが、継続的な学習には課題が残る。上位と下位の二極化の解消も今後の課題である。
		自らの学習スタイルの確立を目指し、面談等を通して学習計画の助言や支援を行う。			